

# 全国建設労働組合総連合 プレゼン資料

---

平成 29 年 12 月 12 日  
全国建設労働組合総連合  
木造住宅設計施工委員会  
津端英男

当職がこれまでに聞きおよんだ仲間からの意見等を整理まとめた資料です。  
仲間とは、仕入先問屋社員、工務店経営者、工務店棟梁、社員大工、手間請け大工、設計者  
などです。

## 第 2 回委員会資料 3 - 1、P5 戸建住宅（300 m<sup>2</sup>未満）

年間着工戸数 4 戸以下の事業者の戸建住宅、省エネ基準適合率 39%、誘導基準適合率 27%  
という数字に関しておもに聞き取りを行いました。

### 設問 1 省エネ基準に適合していない住宅を施工する理由は？

工務店がなぜ省エネ基準が必要かを理解していない

ユーザーの総予算に合わせてしまい、省エネ基準に適合しない仕様で見積る

基準適合への費用負担（25 坪@35～40,000 計 87～100 万円）の説明が出来ない（※1）

工務店がユーザーメリットを説明しきれていない

ユーザーの理解がないから工務店は無理に進めない

温暖地など、断熱は不要と考えており、ユーザーが通風を優先している地域もある

伝統木造を施工しているので省エネは特に考慮していない、構造・耐震性能を優先している

#### 基準に適合する住宅を施工するための施策は？

国土交通省にメリットと費用増嵩についてテレビコマーシャルを入れて欲しい

工務店からユーザーに説明・承諾をいただくスタイルから、ユーザーが工務店に適合住宅を  
依頼する環境が必要

#### 工務店経営者、棟梁、大工（社員・手間請け）がやるべきことは？

省エネ講習の継続をお願いし、受講の義務化が必要（未受講の職人はまだ多い）

職人が勉強していかないといけない

### 設問 2 省エネ基準適合住宅を施工している工務店はどのような工務店か？

長期優良住宅、認定低炭素住宅を手がけている工務店

自社で設計からできる工務店

自社の断熱仕様を決めており、ユーザーにメリットを説明できる工務店

#### 工務店の実情は？

感覚的に省エネ基準適合住宅を設計・施工できる工務店は 30%くらい

20～30%の工務店は我関せずの状況

全体で見ると国土交通省のデータに近いのではないかと思う

### 設問 3 確認時に適合義務化したときの問題点は？

省エネ基準適合を促していくことは良いことであるが、省エネ基準適合住宅を設計・施行できない工務店も数多く存在しており、いきなり着工禁止とせず段階を踏んだ対応を考えてほしい

伝統木造については省エネ基準への適合が難しく、配慮が必要

現場において、設計図書どおりに省エネ基準に適合する住宅が建設されることを担保する仕組みも必要

高齢の設計者等の省エネ基準適合住宅を設計できない方は廃業を考えている者もいる

省エネ基準適合住宅を設計できない方については、外皮計算等は外注を予定している者もいる

気候・地域に根ざした住宅とするため設計の自由度を確保する観点からユーザーが省エネ基準への適合を不要と思っている場合もあり、義務化することは反対と考えている者もいる

省エネ基準への適合のため、断熱材、サッシ、ガラス等の材料の供給が不足し、住宅が造れなくなることを懸念している者もいる

### 設問 4 現状の現場の状況はいかがか？経験及び見聞きしたことの自由意見

トップランナーの現場には材料は入っているが、人材は入っていない（未熟な施工）

性能評価（設計・建設）を取得して施工し、第三者検査員が現場に来て検査している。が、当該検査員は施工方法については何も言わない。指定材料が入っているかのみ確認している。また、395 と 430 の違いが判っていない。天井に 430 を敷き込み、壁に 430 と 395 が入っていると、違いは何かを聞いて来る

未だに間柱側面に防湿シートをタッカー止めしている現場を見た（ 〃 ）

教科書通りの施工現場は少ないように感じている（ 〃 ）

グラスウールでも、気密コンセントボックスが使用されていなかった。

現場では気流止めの施工が見られない

UA 値、 $\eta a$  値をユーザーに説明すると、工務店のエゴと思われている

グラスウールの施工は教科書通りにはいかない

グラスウールはコストメリットがあるものの、施工は難しい

教科書通りの施工をしているつもりだが、検査がないので不安もある。

手間請けの時は、断熱材施工費の追加が必要だと思う。

電気・設備の手戻りが出来ないので、お客様の変更に対して対応が出来ない。

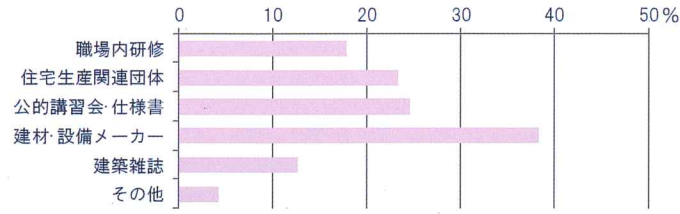
現場発泡ウレタンの吹き付けが増えている、断熱・気密まで責任施工の会社の存在

グラスウール充填断熱施工を断熱材メーカーが材工で請ける会社がある

性能ではなく、金額の安い材料を用意して欲しいという話が多い

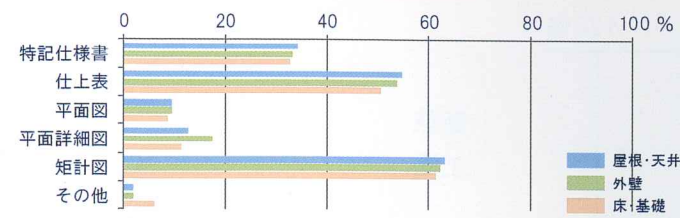
UA 値、 $\eta a$  値だけでなく、C 値の規定が何故ないのか？

## 省エネ施工の情報入手先



省エネ施工に関する情報の入手先は、建材・設備メーカーの講習会やマニュアルからが多くなっています。(※1)

## 省エネ設計・施工に使用する図書



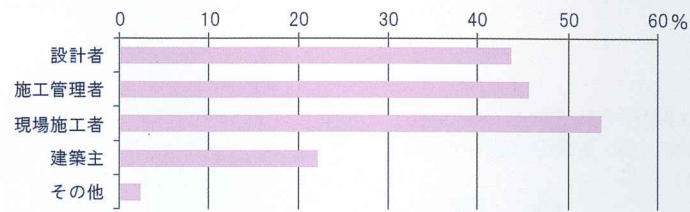
断熱仕様を記載する図面または現場での確認・チェックには矩計図、仕上表が多く使われています。(※4)

## 断熱性能の決め方



2割強の回答者が断熱性能を把握するために性能基準に従い外皮計算等を行っています。3割強の回答者が仕様基準に従い断熱性能を決定しています。(※3)

## 断熱住宅の普及・建設のキーパーソンは？



最適な断熱住宅の普及・建設には現場施工者の意識啓発が必要としたのは回答者の半数以上でしたが、省エネ設計・施工に関する分野にも意識啓発が必要です。(※1)

(※1)住宅省エネルギー技術講習会平成24～28年度施工技術者講習、同平成25～28年度設計者講習、同平成25年度施工技術リーダー研修・設計リーダー研修の受講者を対象とした省エネ設計・施工に関する実態調査結果より作成。集計対象97,475票。(※2)住宅省エネルギー技術講習会平成24～28年度施工技術者講習、同平成25年度施工技術リーダー研修の受講者を対象とした省エネ設計・施工に関する実態調査結果より作成。集計対象59,642票。(※3)住宅省エネルギー技術講習会平成28年度設計者講習の受講者を対象とした省エネ設計・施工に関する実態調査結果より作成。集計対象8,779票。(※4)住宅省エネルギー技術講習会平成25～28年度設計者講習、同平成25年度設計リーダー研修の受講者を対象とした省エネ設計・施工に関する実態調査結果より作成。集計対象37,833票。

# 住宅の省エネルギー設計・施工の実態

平成28年度版

省エネルギー技術講習会  
受講者97,475人の回答

わが国は温暖化問題や大震災を契機としたエネルギー制約に直面しており、エネルギー使用における低炭素型の社会をつくる大きな課題となっています。

早急に取り組みねばならない住宅の省エネルギー化のために、国では新築住宅・建築物の段階的な省エネルギー基準への適合化を進めており、地域の大工・工務店も省エネルギーのための適正な技術習得が求められています。

そのような背景があるなか、住宅の省エネルギー設計・施工の現在の実態を把握するための調査を実施しました。

本資料は、平成24～28年度の5年にわたり全国各地で開催された省エネルギー技術講習会において回収した97,475票のアンケートの結果を概要としてまとめたものです。

### 国土交通省補助事業

## 住宅省エネルギー技術講習会 (施工技術者講習会・設計者講習会) HP▶<http://www.shoene.org>

省エネ基準への100%適合化に向け、大工・工務店の適正な断熱施工技術等の習得のため、施工技術者講習会および設計者講習会を開いています。

講習会は全国47都道府県で開催。受講対象者は地域の木造住宅生産を担う大工技能者や断熱施工技術者、設計者です。  
受講料：1,000円(別途、修了証代必要)



### 全国木造住宅生産体制推進協議会

事務局・一般社団法人 木を活かす建築推進協議会  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F  
TEL.03-3560-2882 FAX.03-3560-2878 HP:<http://www.kiwoikasu.or.jp>



### 全国木造住宅生産体制推進協議会

